

真実を知ってください

コカイン

drugfreeworld.org

ユーロ
パワ
ホワイ
フ

この小冊子が 制作された理由

街 中や学校、
あるいは

インターネットやテ

レビの中で、薬物につい

てのさまざまな情報が氾濫して

います。その中には正しい情報もあり

ますが、そうでないものもあります。

そうした薬物情報の多くは、売人によって広められたものです。今では更生したかつての売人は「薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言っていた」と証言しています。

そのような情報にだまされないでください。

薬物乱用という罠を避けるためには、事実を知る必要があります。この小冊子はそのために制作されたものです。

この小冊子をお読みになった上で、皆様のご意見やご感想をウェブサイト

drugfreeworld.org から、または
Eメール **info@drugfreeworld.org**

までお寄せください。

コカインとは？

コカインは、一般的な粉状になっているものと、結晶状*のものの総称です。その粉には通常、コーンスターチ、タルカム・パウダー（香料入りパウダー）、砂糖などの不活性物質や、プロカイン（局部麻酔薬）、覚せい剤などの薬物が混合されています。

コカインはコカの葉から抽出され、もともとは鎮痛剤としてつくられました。それは大抵鼻から吸引され、その粉は鼻の組織から血流に吸収されます。また口から摂取したり、歯茎に塗り付けたりします。

コカインの乱用者は、この薬物をさらに速く体内に吸収させるために、それを静脈に注射します。しか

し、これは実際に過剰摂取の危険につながります。煙や蒸気を吸引する方法は体内への吸収を速めますが、健康を損ねる可能性は注射よりもまだ低いのです。

* 結晶状のコカインはクラック・コカインと呼ばれています。この小冊子シリーズの「真実を知ってください：クラック・コカイン」を参照してください。

命取りの白い粉

コカインは、最も危険な薬物のひとつとして知られています。一度この薬物を取り始めると、身体的にも精神的にも、その支配から自由になることはほとんど不可能なことがわかっています。身体的には、この薬物は脳内の主な反応器（体内の変化を感じ取る神経の末端部）を刺激することで陶酔感をつくり出します。この薬物を使用する人はすぐに耐性ができるため、同じ効き目を得るためには、より多くの量を頻繁に摂取しなくてはなりません。

今日ではコカインは世界中に広がり、何十億ドルも稼ぎ出す産業となっています。コカインを使用する人は

あらゆる年齢、職業、経済レベルに及んでおり、8歳の児童が使用していた例さえあります。

コカインを摂取すると、呼吸器の障害、脳卒中、脳内出血、心臓発作などを起こすことがあり、それにより死に至ることがあります。コカイン中毒の母親から生まれてくる子供たち自身も中毒となります。その多くが生まれつきの障害、そして他にも数多くの問題を抱えています。

その危険性にもかかわらず、コカインの使用は増加する一方です。おそらく薬物使用者は、中毒へのめりこんでいくきっかけとなった最初の理由を解決することが難しいのでしょう。

コカインの通称：

現在、通りで用いられているコカインの呼び名の中から代表的なものをあげます。

- 粉
- 嗅ぐやつ
- ビンジ
- ブロー
- C (シー)
パウダー
- チャーリー
- コーク
- ダスト
- フレーク
- モジョ
- ノーズ・
キャンディー
- パラダイス
- スニーズ
- スニフ
- スノー
- トウート
- ホワイト

「**コ**ーク(コカイン)で知覚力が
高まったり、特別な能力が
与えられたり、物事をコントロール
できたりすると思っているとしたら、
それは全くとんでもない話。
しばらくすると、請求書も払わず、
もはや自分自身さえ構わなくなり、
友人たちや家族からも見放される。
無力になり、孤独になるんだ。」
— ナイジェル

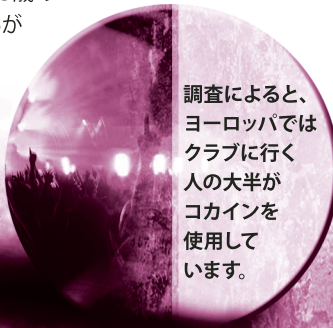
国際的な統計

コカインは、世界で2番目に多く取引されている違法薬物です。最近の統計によれば、世界各地でコカインの押収量は増え続けており、現在では合計756トンに上ります。その大部分は南アメリカにおいて摘発されたもので、北アメリカがそれに続きます。

欧州薬物・薬物中毒監視センターによると、コカインはヨーロッパでも2番目に多く乱用されている違法薬物です。15歳から34歳の年齢層では、過去に1度でもコカインを使用した経験のある人はおよそ750

万人、過去1年の間に使用していた人は350万人、過去1ヵ月間では150万人に上ります。

2006年「薬物使用と健康に関する全国調査」によると、アメリカでは、12歳以上のおよそ3530万人が一度はコカインを試したことがあると報告しています。18歳から25歳の世代では、6.9%が過去1年の間にコカインを使用しています。



調査によると、ヨーロッパではクラブに行く人の大半がコカインを使用しています。

国立薬物乱用研究所が2006年に青少年を対象に実施した調査によると、高校3年生の時点で過去にコカインの使用経験がある生徒は8.5%でした。

アメリカにおいて、病院の緊急病棟から「薬物乱用警告ネットワーク」に寄せられる報告の中で、コカインは最も頻繁に名前が上がる違法薬物の常連です。2005年の報告によると、コカインの使用に関連して448,481人が緊急医療施設に運び込まれています。

「友達は4年間薬物をやっていた。そのうち3年間はコカイン、LSD、モルヒネなどの強い薬物、そして多くの抗うつ剤や鎮痛剤を取っていて、実際、どんな薬物でも手当たり次第にやっていた。彼は見るたび、激しい痛みを訴え、それはどんどん悪くなっていったため、医師に診せた。

医師は彼にこう言った。
『もう手遅れだ。体の状態が悪化していて、もう長くはないだろう。』彼は、その数日後に死んだ。」—ドウェイン

なぜコカインは そんなに中毒性が高いのか？

コカインは、メタンフェタミン^{*1}（覚せい剤）に次いで、どの薬物よりも心理的な依存になりやすいものです。コカインは脳内の主な快楽中枢を刺激し、陶酔感を極度に高めます。

コカインへの耐性は急速に高まるため、やがてコカイン中毒者は、以前と同じ摂取量では同様の快楽を得られなくなります。

薬物の致命的な組み合わせ

コカインは精神安定剤やアンフェタミン^{*2}、マリファナ、ヘロインなどの薬物と一緒に取られることがあります。このように他の薬物を組み合わせることは、コカインの使用による危険性をさらに高めます。2種類の薬物の常習を引き起こす可能性に加えて、複数の睡眠薬が混合されることで、命に関わる場合があります。

^{*1} メタンフェタミン：覚せい剤の化学名。非常に中毒性の高い中枢神経刺激剤。

^{*2} アンフェタミン：中枢神経刺激剤。「スピード」と呼ばれることが多い。



「**私**には何の未来もありませんでした。

どうやってコカイン依存から抜け出したらいいのかわかりませんでした。私は途方に暮れていました。自暴自棄になり、コカインのひどい乱用を止めることができませんでした。

幻覚症状があり、自分の皮膚の下も生き物が這っているようでした。

薬物を打つたびにそんな感じがし、その生き物を追い出すために注射した個所を出血するまで掻きむしりました。このためある時ひどい出血を起こし、病院に担ぎ込まれたほどでした。」— スーザン



コカインの影響

コカインの短期的な影響

コカインを取ると、短時間の間、強烈な高揚感を経験しますが、すぐにひどい憂うつ感、苛立ち、薬物へのさらなる切望があとに続きます。コカイン使用者は、食事や睡眠をきちんと取らなくなります。また心拍数の急激な増加や、筋肉のけいれんやひきつりを経験することがあります。この薬物を使う人は、「ハイ」な状態でない時でさえ、被害妄想*になったり、怒り、敵意や不安を感じます。

使用する量やその頻度に関係なく、コカイン使用者は、心臓発作や呼吸不全を起こす危険性が高くなり、突然死に至る場合もあります。

コカインの長期的な影響

「麻薬中毒」という言葉は、もともとコカインの常習による副作用を説明するために何年も前につくられたものです。薬物への耐性が増すにつれ、同様の高揚感を得るために摂取量はだんだんと増加します。長期間にわたって日常的に摂取し続けると、睡眠障害や食欲の減退を引き起こします。人によっては精神に異常をきたしたり、幻覚症状が始まることもあります。

* 被害妄想：他人に対して根拠のない疑い、不信任、恐れを抱く状態のこと。

コカインは脳が化学物質を作り出す工程を邪魔するため、この薬物を使用する人は「正常さ」を保つためだけでも、必要な薬物の量が増えていきます。他の薬物の場合と同様、コカイン中毒になった人は、生活の他の面についての関心を失います。

この薬物は、効き目が切れるとひどい憂うつ感を引き起こします。それは、薬物を手に入れるためには何でも一殺人さえ犯しかねない、というところまでひどくなることがあります。

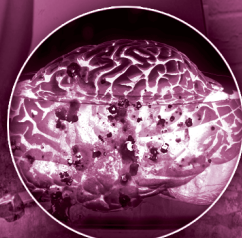
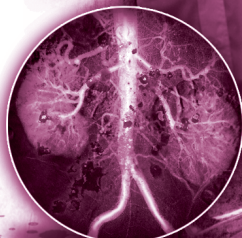
そしてもし中毒者がコカインを入手できなければ、ひどい憂うつ状態になり、自殺することもあります。

「コカインに手を出したら
終わりです。この薬物の
ために2年間も刑務所にいました。
出所した後もつらいことが多く、
またこの薬物を取り始めました。
コカインのために売春婦になった
少女を10人も知っています。それは
人を信じられないくらい極端に
墮落させます。それでも人は、
コカインが自分の人生をど
れほど台無しにしているか
に気付かないのです。」

— ショーン

短期的な影響

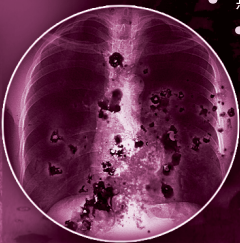
- 食欲の減退
- 心拍数、血圧、体温の上昇
- 血管の収縮
- 呼吸数の増加
- 瞳孔の拡大
- 睡眠障害
- 吐き気
- 極端な興奮
- 奇怪でとっぴな、時に暴力的な行動
- 幻覚症状、過度の興奮、過敏性
- 皮下に虫が這うような幻覚症状
- 強い陶酔感
- 不安と妄想
- 憂うつ感
- 薬物への激しい渴望
- パニック、精神異常
- 過剰摂取は（一度でさえ）
けいれんや卒中、時に死を
もたらすことがあります



コカインは、心臓や腎臓、脳、肺の損傷を引き起こします。

長期的な影響

- 心臓および脳血管の永久的な損傷
- 心臓発作、卒中、死につながる高血圧
- 肝臓、腎臓、肺の損傷
- 鼻から吸引した場合、鼻の中の細胞破壊による鼻血
- 喫煙した場合、呼吸器の障害
- 注射の場合、伝染病やはれもの
- 栄養失調、体重の減少
- 重度の虫歯
- 触覚の幻覚症状
- 性的機能不全、生殖障害および生殖不能（男女とも）
 - 無関心、無気力、混乱による極度の疲労
 - 過敏性や情緒不安定
 - 危険な行動の増加
 - 一時的な精神錯乱あるいは精神異常
 - ひどい憂うつ感
 - 薬物への耐性の増加や中毒（一度きりの使用であっても）



子供たち、それは何の罪もない コカインの犠牲者たち

よくこんなことを言う人がいます。「ああ、薬物をやっているよ。でもそんな個人の自由じゃないか!」しかし薬物の使用は常に、何の罪もない犠牲者を生み出します。薬物を買う続けるためのお金欲しさに、自暴自棄な手段を取る中毒者の犠牲になる人たちがいます。薬物に影響されている運転手が引き起こした交通事故に巻き込まれて死亡する人もいます。

コカインの最も悲惨な犠牲者は、妊娠中に薬物を使用した母親から生まれた新生児です。アメリカ合衆国だけで、母体内でコカインにさらされた新生児が

1年間に何万人も生まれています。中毒でない新生児も、多くの場合、未熟児、出生体重が少ない、成長阻害、生まれつきの障害、そして脳や神経系の損傷など、さまざまな身体的問題に苦しめられます。

体重の少ない新生児たちが生後1ヵ月で亡くなる可能性は、通常の新生児の20倍です。そして知的障害や脳の損傷など生涯続く身体障害の危険性も増加します。

このような悲劇が社会に及ぼす影響は計り知れません。

コカイン：その歴史

コカは、最も古く、強力で、また最も危険な天然の興奮剤のひとつです。紀元前3000年ごろ、古代インカ帝国の人々は、アンデス山脈の薄い空気に対応するために、心拍数を上げ、呼吸を速める目的でコカの葉を噛みました。

ペルーの先住民たちは宗教儀式の際にだけコカの葉を噛みました。1532年、スペイン軍がペルーを侵略した時にこのタブーは破られました。スペイン軍は、銀山で働くインディオの強制労働者を思いのままに操り、搾取し続けるために、彼らにコカの葉を与え続けました。

1859年、ドイツの化学者アルベルト・ニーマンがコカの葉から初めてコカインを抽出しました。その効果が

もともとアンデス地方の宗教上の伝統として始まったものが、世界中で乱用されるように変わっていったのです。

医療関係者に知られるようになったのは1880年代に入ってからのことでした。

オーストリアの精神分析学者ジグムント・フロイトは、自らもこの薬物を使い、憂うつ感や性的不全を治療する強壮剤として、コカインの使用を幅広く推進した最初の人でした。

彼はコカインを「魔法」の薬物と呼び、1884年、その「利点」を推奨する「コカインに関して」という論文を発表しました。

しかしフロイトは、客観的な観察者ではありませんでした。彼はコカインを常用し、それをガールフレンドや親友に処方し、一般的な使用を勧めました。



フロイトは、コカインが「身体的及び倫理的な墮落」を招くことに気付いていながら、親友たちにコカインを勧め続けました。その結果、友人のひとりは、「白い蛇が肌の上を這うような」偏執的な幻覚症状にさいなまれることになりました。

また、フロイトは「(コカインは)非常に多量に摂取しなければ人体に毒性はなく、致死量というものもないようである」と信じていました。この考えに反して、彼の患者は、彼が処方したコカインの多量摂取がもとで亡くなりました。

1886年、この薬物の評判は、ジョン・ペンバートンがコカの葉を原料とした新しい飲料「コカ・コーラ」を開発したことにより、さらに加速しました。その陶酔感と活気付けの効力により、世紀の変わり目までに、コカ・コーラは大人気を呼びました。

1850年代から1900年代初期まで、コカインやアヘンを加えたエリキシル（魔術または医療用の飲料）や強壮剤、ワインなどが社会のあらゆる階層で幅広く使わ

れました。発明家トーマス・エジソンや女優のサラ・ベルナールといった有名人が、コカイン入りの強壮剤や飲料の「奇跡的な」効力を推奨しました。コカインは、無声映画業界で人気になり、ハリウッドから発せられたコカイン支持のメッセージは、当時何百万もの人々に影響を与えました。

社会でのコカインの使用が増加するにつれて、この薬物の危険性が徐々に明らかになりました。大衆の圧力により、1903年にコカ・コーラ社は製品からコカインを取り除きました。

1905年にはすでに、コカインを鼻から吸引することが流行となり、5年のうちに病院や医学論文はこの薬物の使用による鼻の損傷の症例を報告し始めました。

1912年、アメリカ合衆国政府は、コカインに関連する死亡者は1年間で5千人と報告し、1922年にコカインは正式に禁止されました。

1970年代に、コカインは芸能人や実業家たちの間で流行の、新しい薬物として登場しました。コカインは、あわただしく刺激的な生活の格好の友であるように思われていたのです。それは「活力を与え」、「ずっと眠らずにいる」ことに役立ったのです。

アメリカのいくつかの大学では、コカインを試したことのある学生の割合は、1970年から1980年の間に10倍も増加しました。

1970年代後半、コロンビアの薬物密売組織（カルテル）は、コカインをアメリカに密輸するための巧妙な流通経路を構築し始めました。

コカイン常習には多額の出費が伴うため、かつてコカインは「金持ちのドラッグ」と見なされていました。しかし1980年代後半には、もはや金持ちだけが使うドラッ

グではなく、アメリカで最も危険で中毒性の高い薬物として知られ、貧困や犯罪、死が付き物と見なされるようになっていました。

1990年代初め、コロンビアの薬物カルテルは、年間に500トンから800トンのコカインを製造し、アメリカだけでなくヨーロッパやアジアにも輸出しました。1990年代中頃、これらの巨大なカルテルは司法当局によって解体されましたが、より小規模な数多くの組織がそれにとって代わりました。現在コロンビアでは、判明しているだけで300以上もの薬物密売組織が活動しています。

2008年の時点で、コカインは世界で2番目に多く取引されている違法薬物となっています。

薬物の売人がよく使う誘い文句

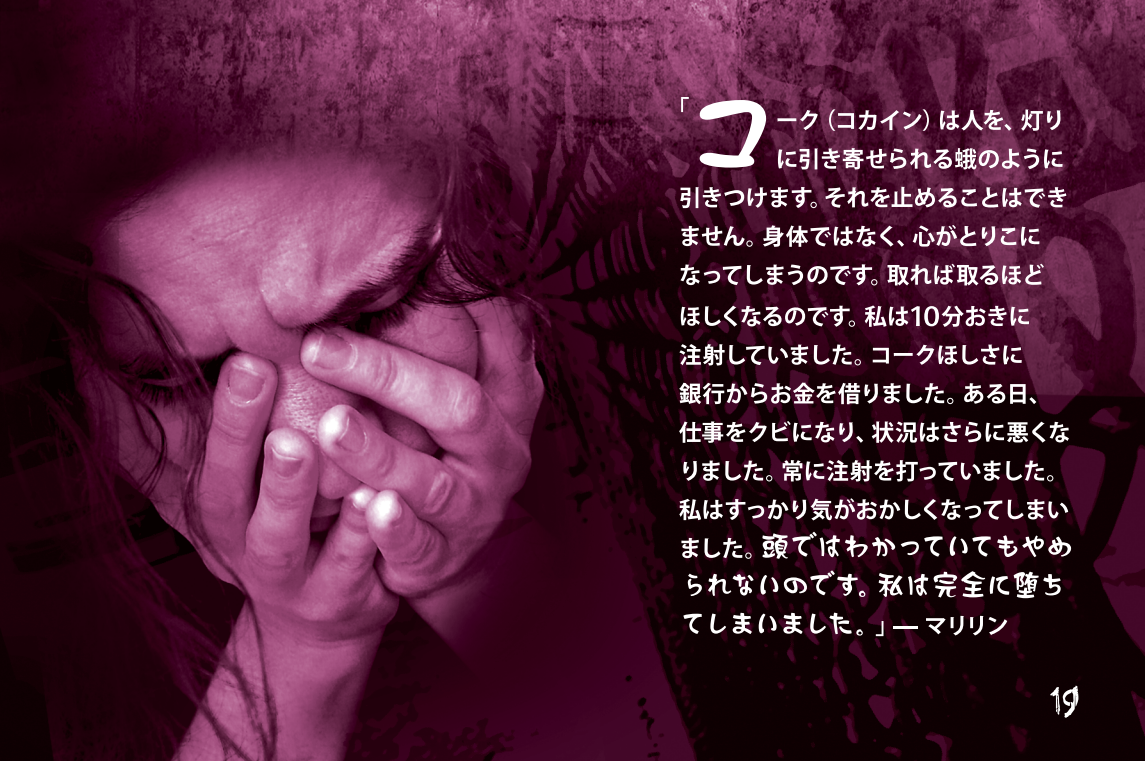
十代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55%が「周りの雰囲気になされた」と回答しています。彼らには「ださい」と思われたくない、カッコよく見られたい、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友達のような顔をして近付き、親切を装って「いい気分になれるもの」を教えてあげると持ちかけてきます。その薬物を使うと「周囲から浮いてると思われなくなる」とか「仲間の中で目立てる」というのです。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。彼らは「コカインをやると毎日パーティー気分になれる」などと言ってくるでしょう。

売人は「お客さん」が払うお金にしか関心がありません。薬物のせいでその人の人生が台無しになっても気にしません。かつての売人たちは、薬物を買う人を「いいカモ」としか見ていなかったと証言しています。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずです。

A person with long dark hair is shown from the chest up, their face buried in their hands in a gesture of despair or distress. The background is dark and textured, with some faint, stylized patterns. The overall mood is somber and intense.

「**コ**ーク(コカイン)は人を、灯りに引き寄せられる蛾のように引きつけます。それを止めることはできません。身体ではなく、心がとりこになってしまうのです。取れば取るほどほしくなるのです。私は10分おきに注射していました。コークほしさに銀行からお金を借りました。ある日、仕事をクビになり、状況はさらに悪くなりました。常に注射を打っていました。私はすっかり気がおかしくなっていました。頭ではわかっていてもやめられないのです。私は完全に墮ちてしまいました。」—マリリン

薬物についての真実

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量に違いがあるだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人

の行動は奇妙だったり、不合理であったりするかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物はすべての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。



なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避するため。
- リラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



参考文献

European Monitoring Centre
for Drugs and Drug Addiction,
“State of the Drug Problem in
Europe, 2008”

U.S. Drug Enforcement Agency
Fact Sheet on Cocaine

National Institute on Drug
Abuse: “NIDA Info Facts: Crack
and Cocaine,” April 2008

2008年 世界薬物報告書
国連薬物・犯罪事務所

“Cocaine Facts & Figures,”
Office of National Drug Control
Policy, 2008

“Monitoring the Future:
National Results on Adolescent
Drug Use Overview of Key
Findings 2007,” National
Institute on Drug Abuse

写真：2、8ページ：Corbis;
16ページ：Freud Museum Photo
Library.

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに22の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。新しいドラッグが次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。

真実を知ってください：薬物

この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤・吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

さらに情報を知りたい方、またはこの小冊子シリーズのいずれかをさらに
何部かご希望の方は、下記までご連絡ください。



Foundation for a Drug-Free World
1626 N. Wilcox Avenue, #1297
Los Angeles, CA 90028 USA
drugfreeworld.org
info@drugfreeworld.org
1-818-952-5260

薬物のない世界のための財団
日本支部

〒170-0001 東京都豊島区
西巣鴨1-17-5
パークホームズ西巣鴨308
TEL: 03-5394-0284
Eメール: info@drugfreeworld.jp
drugfreeworld.jp